

# 入試合格者を輩出させる水流

人と水のかかり方は世界各地で多様である。

東アジアに流布する風水思想においては、水は人びとに吉凶禍福をもたらすものとして意味づけられている。中国の少数民族トン族による風水実践の事例から人と水のかかり方を考える

かねしげ つとむ  
兼重 努

滋賀医科大学医学部准教授

専門は文化人類学、地域研究。今後は中国における中央と地方、漢族と少数民族のあいだの相互交渉の研究、ならびに風水思想、積徳行、運命観や公共観念を対象とした通文化的比較研究をすすめてゆきたい。

水は飲み水として、また生活・農業用水などとして、人びとの日常生活に必要不可欠である。こうした日常的な実用資源という側面に限らず、水は文化によって多様に意味づけされている。たとえば、中国に源を発し東アジア諸国に広く伝播している風水思想において水は独自の意味を担っている。

わたしが調査している西南中国の少数民族トン族の村落社会も風水思想の影響を受け、風水知識が流布し、風水実践もさかんである。トン族は貴州省、湖南省、広西壮族自治区の境界地域や湖北省鄂西に居住するタイ系の少数民族で、人口二九六万人（二〇〇〇年の統計）である。

広西・三江トン族自治県北部にあるわたしの調査地では集落の内部や近辺を流れる水が重要だ。なぜなら水流は住民に吉凶禍福をもたらさうと意味づけられているからだ。凶禍を避けたり、吉福を呼び込んだり

するために、地元民はさまざまな実践をおこなっている。以下、自村に入試合格者を輩出させることを目的とした風水実践の事例を紹介しよう。

## 新鼓楼の建設

わたしの調査地A村には集落の中心部に建設年代不詳の鼓楼があった。にもかかわらず一九九二年から翌年にかけて新鼓楼を増設した。鼓楼とはトン族の集落に建てられる、塔のような形状の木造公共建築物で、お



錦溪の湾曲地点に建つ新鼓楼

ること、村を美しくし、外国人向けの観光スポットを作ること。以上が彼の当初の答えであった。あとでわかったことだが、彼はあくまで副次的な目的を述べたにすぎない。

## 建設の真の目的

Y氏が新鼓楼建設の真の目的をわたしに教えてくれたのは、聞き取りを重ねてのちのことであった。答えは集落の風水の改善であった。当初彼が風水の話題を避けていたのは、当時の中国において、風水は迷信として政府から糾弾されがちな日陰者の存在だったからだ。

Y氏によると、以前、川向こうの村では高校や師範学校などに毎年五人くらの合格者を輩出していたが、A村では誰一人として合格できなかった。シャーマンに見てもらったところ、集落の「風水の配し方」がよくないことが原因とわかった。「風水を配する」とは周囲の自然環境が風水理論に照らして理想的でない場合、自然環境に手を加えて不足を補い、風水を改善することをいう。集落の風水を改善すれば村の子どもたちを上級の学校に送りこみ、賢くて高級な人材を育成できるようになる。高等教育機関に進んだ村の子弟が卒業後、官僚になれば、将来、出身村に財物をもたらされることが期待で

きるのだ。

## 風水改善の具体的方法

風水改善の具体的方法は、錦溪のほとりの湾曲地点を選んで鼓楼を建てることであった。

なぜ錦溪のほとりなのか。錦溪は集落の背後に迫る、「龍脈」とよばれる山並みに由来する。龍脈の末端部分の「カ所」には龍脈を伝わってやってきた「気」が集中している。その地下には水路があり、これが錦流となつて集落に向かって流れ出ているのである。

新鼓楼に期待される役割は何なのか。それは錦溪の流れとともに集落外に流出していた目に見えない金銭や食糧などの財物をせきとめ、集落内に残すことだ。新鼓楼の建設にあたり、自村からの官僚輩出を願つて、Y氏はその柱の長さを「魯班尺」という物差し「官」という目盛り

あわせた。これは官僚輩出につながる吉の目盛りである。

なぜ湾曲地点なのか。溪流のもたらず財物をせきとめ、集落内に残すために最適なのは溪流の湾曲地点であり、真つすぐ流れている地点はよくないとされているからだ。建設後、効果はすぐにはあらわれない。一九九四年以降A村から毎年少なくとも一、二人は高校や中等専門学校に受かるようになった、とY氏はうれしそうに語ってくれた。

一九九七年、Y氏の娘婿が「錦溪亭頌」と題する、錦溪亭を褒め称える詩文を亭内に掲示した。なかに「玉柱を吉地に建て、財源が永久に（集落外に）漏れないようにしっかりと保つ」（玉柱立吉地、保住財源永不漏）という一節が盛り込まれていた。「玉柱」は錦溪亭、「吉地」は錦溪の湾曲地点、「財源」は財物をもたらす錦溪の水流をさす。地元民向け、かつ詩文形式のメッセージといふものの、建設の真の目的が公開されたのは少し驚いた。

わたしの調査地では、水流にまつわる風水知識や実践にかかわる事例はほかにも数多い。興味をおもちの方は『人と水2 水と生活』（秋道智彌・小松和彦・中村康夫編、勉誠出版、二〇一〇年刊）所収の拙稿もあわせてご覧いただければ幸いです。



新旧の鼓楼の位置関係



集落とその背後に迫る龍脈

もに村人の集会所として用いられる。新鼓楼の建設地点は集落のはずれの溪流のほとり。この溪流の名称にちなんでそれは「錦溪亭」と命名された。調査地近辺で集落に鼓楼が増設されるのは、村落共同体内部が分化した場合が一般的だ。しかし、今回はどうみてもそうではない。そこでわたしは錦溪亭建設の中心人物Y氏（男性、一九二五年生）を訪ね、建設目的について聞き取ることにした。錦溪亭建設の目的は、集落内に公共の場所、娯楽・納涼の場を増設す



錦溪亭に集う地元の人びと